

志望校対策キットについてのご説明

志望校対策キットは、個別校について過去問を分析して傾向と対策をまとめてあります。なお、本キットは 2007 年までの過去問を対象としており、2008 年以降の入試問題は、ご家庭でさらに分析を行ってください。ただし、定価 30,000 円が半額の 15,000 円となっております。

お申し込みはメールにて承ります。原則として代金引換の宅急便にて発送します。なお、対策キットが対応していない学校の場合は、『志望校対策マニュアル』(定価 15,000 円)をご活用いただくと市販の過去問集があればご家庭でも分析ができます。なお、こちらは実践会のホームページからのお申し込みが可能です。分析用のエクセルシートがバンドルしています(エクセルシートはお申し込み後メールで配信します)。

対策キットは、1 週間単位でまとめて発送しますので、到着までには 1 週間から 10 日程度を要しますので、予めお含みおき下さい。発送に関しては株式会社ディーエーオーが行っておりますので、詳細の受け渡し等は事前にご案内させていただきます。なお、お申し込み後に印刷・製本しますので、キャンセルその他は一切お受けできませんのでご了承下さい。

なお、対策キットは新年度対応に更新する予定はありませんのでご了承願います。

【特典のご案内】

対策キットを同時に 2 校以上お申し込みの時には、『志望校対策マニュアル』(定価 15,000 円)を無償でプレゼントします。

【ご購入された方の声】

今日、雙葉中学の対策キットが届きました。ありがとうございます。まだ、ざっとしか目をとおしていないのですが、やはり、私が分析しているより、ずっと丁寧で詳細なのに、感心&驚き&感謝 e t c です。今後ご指導、よろしく願います。(2009 年入試で雙葉中学合格)

【志望校対策キットのリスト(略称)】

◎ 首都圏

開成、武蔵、麻布、駒場東邦、攻玉社、芝中、明大明治、巣鴨中、桐朋、早稲田中、早稲田実業、学習院女子、桜蔭、女子学院、雙葉、豊島岡、白百合、渋渋中、成蹊中、青山学院、筑波大駒場、東洋英和、慶応普通部、慶応中等部、慶応湘南藤沢、フェリス女学院、横浜共立学園、聖光学院、浅野中、市川中、東邦大東邦、渋幕中。

◎ 関西他

灘中、甲陽学院、ラサール、洛南中、高槻中、東大寺学園、西大和、六甲中、淳心学院、大阪星光学院、愛光中、白陵中、清風中。

以降に見本内容を示しますので、参考にして下さい。志望校対策キットに関してこの冊子以上のご説明はありませんので、よくお読みいただきますようお願いいたします。以下は志望校対策キットの見本のページです。

■はじめに

本マニュアルは中学を受験される方を対象として編集したものである。注意事項並びに内容を熟読の上、最大限活用して志望校突破の原動力とされることを望む。

また、本冊子は合格を保証する種の冊子ではないので誤解のないように。

■本冊子の使用上の注意事項

1. 本冊子は志望校の過去問を基に出題傾向の分析を行い、対策をまとめることを援助するものである。なお、分析に用いる過去問題は市販の過去問集を使用することを前提としている。

分析表を参考までに掲載しているが、必ずしもこの通りでなくてはいけないわけではない。当然それぞれのご家庭でさらにパワーアップして活用されることを期待する。

目安としていただければよい。

2. 志望校の入試問題は概ね市販されていますが、人気校は品薄状態になりがちですので早めの手配並びに予約等をお奨めします。

3. 志望校の入試要項並びに募集に関する詳細な情報は、学校のホームページなどを参照の上確実な対応をお願いします。

特に試験科目、試験時間、配点等については情報誌ではなく学校が公表する内容しか読まないようにご注意ください。

また、推定のデータや受験機関の公表データはその出所に十分ご注意ください。

本冊子では原則、同校の公表数値を基本として引用し、それ以外については例えば「実践会の会員の報告によると・・・」「〇〇模試の結果から推定すると・・・」という表現を用いています。

4. 国語の入試問題は2007年までは編集されていますが、著作権等の制約条件があり今後市販の過去問についても、出典と模範解答のみの記載になる可能性もあります。

過去問についてはできるだけ志望校の説明会へ足を運び学校が独自に編集しているものがあればそちらの購入を強くお奨めします。

■国語の出題傾向分析一覧

分野			平成12年度				平成13年度				平成14年度			
大分類	中分類	小分類	内容				内容				内容			
文の種類	散文	会話・戯曲	【第2問】倉本總『上流の思想・下流の思想』											
		論説・説明文												『悪童ロビーの冒険』
		小説・物語・伝記												『木遣り唄』
		随筆・紀行・日記												
	韻文	誌												
		短歌												
		俳句												
		解説文												
			内容	問題形式	小問数	配点	内容	問題形式	小問数	配点	内容	問題形式	小問数	配点
内容に関する分類	聞く・話す													
	読む	主題・要旨	文章の図式化、文章全体からの心情把握	抜き出しあり	9	20	文章全体からの理由の説明	抜き出しあり	6	12	文章全体からの人物描写・内容一致・下線部の象徴するもの・心情把握	抜き出し・記述問題あり	9	17
		段落吟味	段落全体からの内容読み取り		2	4					段落のまとめ	記述問題あり	2	4
		内容吟味	心情把握・傍線部の説明・傍線部の理由・同じ意味の内容の抜き出し	記述、抜き出しあり	19	48	傍線部の理由・傍線部の説明・同じ意味の内容の抜き出し・内容一致	抜き出しあり	18	56	傍線部の説明・同じ意味の内容の抜き出し・心情把握	抜き出し・記述問題あり	15	42
		語句の意味												
		作品鑑賞												
		その他												
	書く	作文												
		表現力・短文												
	文法	文と文章												
		品詞・用法												
		その他												
	ことばの知識											ことわざ(転ばぬ先の杖)	1	2
	漢字	漢字の読み	交わず・至る		2	4						連ねる・適う	2	4
		書き取り	際立つ・重厚な		2	4	未開・探る・発揮・略して		2	8	単独・専門・危険・感化・不屈	5	10	
部首・画数・筆順														
かな	かなづかい・句読点													
	送りがな													
文学史														
その他						適当な動詞の挿入		1	3					
問題構成(大問数・総小問数・抜き出し+記述問題数)			大問数:3 小問数:43 抜き出し・記述問題数:28				大問数:2 小問数:36 抜き出し・記述問題数:25				大問数:2 小問数:45 抜き出し・記述問題数:22			

■国語の傾向と対策

1. 傾向と特徴

大問数は平成13年度以降2問、小問数は40前後で定着している。試験時間60分に対し、大問数は2問だが文章が比較的長いので、読解に時間を要する。

文章のレベルとしては、説明文は標準、小説はやや難易度が高い。時代背景が古かったり、外国作品の翻訳であったりすることが原因である。

近年抜き出し・記述問題の割合は減ってきたが、それでも抜き出し問題は比較的多いと言える。

2. 学習対策

毎年必ず出題される漢字の読み書き問題は基本的なものばかりなので、確実に得点できるようにしたい。

また近年は慣用句・ことわざに関する問題が頻出なので、しっかりと対策を立てておく必要がある。

読解力の養成に関しては、多読・乱読以外に方法はないだろう。その際にもただ漫然と読み流すのではなく、文章の流れや筆者の主張を意識しながら読むように心掛けるようにしましょう。要旨を200字程度でまとめる練習も有効である。

但し、学習時間は限られているから塾のテキストや模試の文章、過去問の文章で構わない。分厚い本を読めということではないので注意して欲しい。

本校で出題頻度の高い小説の分野に絞って読む方が、より実践的であろう。小説を読む際には、主な登場人物・場面の移り変わりなどをメモしながら読むとよい。

記号問題以外では抜き出し問題が多く、記述問題はあまり出ない。

抜き出し問題は文章の流れがしっかりと把握できていればそれほど難しくはないので、とにかく上記の勉強法で読解力を養ってほしい。また作文などの特別な記述対策は不要である。

3. 今後の予想

小説から必ず1題は出題されるだろう。出題内容は登場人物の心情把握や文章全体の内容把握、接続詞の選択問題、慣用句・ことわざの意味などが予想される。

暗記すれば対処できる分野（漢字の読み書きや慣用句・ことわざの意味）の出題が年々増

●総括

評論文系統と小説・随筆系から 2 問である。バランスを配慮した出題である。どちらも苦手意識を作ってはいけない。基本的にここでは捨てるものがない。全問解くことを前提に時間配分をすること。

できれば 11 月以降は問題文を速く読み、題意を捉える訓練をすること。特に評論文では筆者が言いたいことは何かを意識しながら読むクセをつけるとよい。

まず、過去問の分析一覧を熟読して、①頻出する分野（毎年あるいは隔年）、②ほとんど出題されない分野（数年に 1 回程度）に大きく分ける。②で自分が受験する年も出題の可能性が低い分野は捨てる。逆に①についてはどこから出題されても対応できるように固めておくことが基本である。

勝ち残るためには

『自分が苦手が出そうな分野は、なんとしても得意なレベルまで引き上げなくてはならない』ことを肝に銘じて欲しい。

算数、社会、理科は省略。

以上